

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	音楽	種目	オーケストラ等
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	無	応募総企画数	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※			

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	こうえきざいだんほうじんきゅうしゅうこうきょうがくだん		
	制作団体名	公益財団法人九州交響楽団		
	代表者職・氏名	理事長 五島 久		団体ウェブサイトURL
				https://www.kyukyo.or.jp/
	制作団体所在地	〒 814-0133	最寄駅(バス停)	西鉄バス荒江四角停
		福岡県福岡市城南区七隈一丁目11番50号 末永文化センター内		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input checked="" type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな			
	公演団体名			
	代表者職・氏名			団体ウェブサイトURL
	公演団体所在地	〒	最寄駅(バス停)	
	制作団体 設立年月	昭和28年10月		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
		理事長 五島 久 副理事長 柴田 建哉 ほか2名 専務理事 本田 一郎 ほか理事3名、監事2名、評議員13名	楽団員 64名 事務局員 26名 (令和7年10月1日現在)	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く	本事業担当者名	営業部 宮坂 奈津子
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	事務局長 大野 寛
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
		natsu.q104@kyukyo.or.jp		09015107735

制作団体の実績

制作団体沿革・
主な受賞歴

1953年創立。財団法人化を経て2013年から「公益財団法人九州交響楽団」となり、九州を代表するオーケストラとしてアジアの交流拠点都市“福岡”に本拠地を置く。
初代常任指揮者・石丸寛(現・永久名誉音楽監督)。その後、森正、安永武一郎(現・永久名誉指揮者)、フォルカー・レニック、黒岩英臣、小泉和裕、山下一史、大山平一郎、秋山和慶が歴任し、2013年からは小泉和裕が音楽監督を務めた。2024年に小泉和裕は終身名誉音楽監督となり、首席指揮者に太田弦、ミュージック・アドバイザーに篠崎史紀が就任。名誉客演指揮者には小林研一郎を擁する。
「九響ビジョン」に掲げる活動理念のもと、アクロス福岡での定期演奏会をはじめ、「天神でクラシック」等の自主公演の他、「中学生の未来に贈るコンサート」、青少年向けのコンサート、オペラやバレエ、合唱との共演、ポップス、映画音楽、ファミリーコンサートなど福岡県を中心に九州各地で年間約150回の演奏活動を行っている。
2006年から「九響シリーズ」9タイトル、小泉九響で「ベルリオーズ／幻想交響曲」、「ベートーヴェン／交響曲第9番」、「マーラー／交響曲第8番《千人の交響曲》」「マーラー／交響曲第3番」「マーラー／交響曲第2番《復活》」のCD等をリリース。太田首席指揮者就任記念公演のライブ録音「ショスタコーヴィチ／交響曲第5番・祝典序曲」がオクタヴィア・レコードからリリース。
これまでに、福岡市文化賞、西日本文化賞、文部大臣地域文化功労賞、福岡県文化賞を受賞。

学校等における
公演実績

＜直近3年間の公演実績と令和7年度の実施予定＞
令和7年度
文化庁「舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)」:6公演 (実施予定)
福岡県市町村振興協会「中学生の未来に贈るコンサート」:47公演 (実施予定)
福岡市文化芸術振興財団「アーティストとであう」(室内楽公演):6公演 (実施予定)
令和6年度
文化庁「舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)」:9公演
福岡県市町村振興協会「中学生の未来に贈るコンサート」:37公演
福岡市文化芸術振興財団「アーティストとであう」(室内楽公演):5公演
令和5年度
文化庁「舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)」:8公演
福岡県市町村振興協会「中学生の未来に贈るコンサート」:42公演
福岡市文化芸術振興財団「アーティストとであう」(室内楽公演):6公演
令和4年度
文化庁「文化芸術による子供育成総合事業」－巡回公演事業－:5公演
文化庁「子供のための文化芸術鑑賞・体験再興事業」:5公演
福岡県市町村振興協会「中学生の未来に贈るコンサート」:51公演
福岡市文化芸術振興財団「アーティストとであう」(室内楽公演):6公演

特別支援学校等における
公演実績

文化庁「文化芸術による子供育成総合事業」－巡回公演事業－
宮崎県立みなみのかぜ支援学校 令和元年6月21日(金)

公益財団法人福岡県市町村振興協会「中学生の未来に贈るコンサート」(室内楽公演)
＜直近1年間＞
福岡県立福岡聴覚特別支援学校 令和6年10月3日(木)
久留米市立久留米特別支援学校 令和6年11月11日(火)
大牟田市立大牟田特別支援学校 令和6年11月20日(水)
福岡県立福岡特別支援学校 令和6年11月26日(火)
福岡県立古賀特別支援学校 令和6年11月27日(水)
福岡県立太宰府特別支援学校 令和7年9月24日(水)【実施予定】
福岡県立糸島特別支援学校 令和7年9月25日(木)【実施予定】
久留米市立久留米特別支援学校 令和7年10月2日(木)【実施予定】
福岡県立筑後特別支援学校 令和7年10月10日(金)【実施予定】
福岡県立柳河特別支援学校 令和7年12月8日(月)【実施予定】

参考資料

申請する演目のWEB公開資料

有

※公開資料有の場合URL

<https://youtu.be/BJY0Z1Gi0Mw>

※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード

ID:

無

PW:

無

別添

あり

【公演団体名 公益財団法人九州交響楽団】

対象

小学生(低学年)

○

小学生(中学年)

○

小学生(高学年)

○

中学生

○

企画名

『情景描写』
作曲家や演奏家は、楽器を使ってどんな景色や気持ちを表しているのでしょう…
想像しながら聴いてみましょう♪

企画のねらい

演奏やお話を通して児童・生徒が様々な景色や感情を想像し、オーケストラの演奏を聴くという貴重な体験を心から味わい、豊かな感性を育むことを趣旨としています。

演目概要・演目選択理由

【メインプログラム】 ベドルジフ・スメタナ作曲 連作交響詩『わが祖国』より「ヴァルタヴァ(モルダウ)」
チェコの作曲家スメタナが生きていた時代、隣接国から政治的、宗教的、文化的圧力を受け、母国語の使用が禁じられる中で、“自分たちの国を作りたい”という愛国心と悲願を込めて、『わが祖国』を完成させた。母国語が禁じられていたため、「ヴァルタヴァ(チェコ語)」をドイツ語の「モルダウ」という曲名にした、などの作品が生まれた時代背景や歴史を分かり易く解説する。また、児童・生徒が川の流れや流れが通過する情景を想像しながら聴くことができるよう、情景を表現する楽器を紹介したり、特徴的な旋律を分割演奏することで想像を膨らませる。分割演奏の後に全曲を演奏する。

【指揮体験】 ジョルジュ・ビゼー作曲 歌劇『カルメン』より 前奏曲の一部分
数多くある歌劇の中でも最も有名な『カルメン』の冒頭に演奏される楽曲でオーケストラを指揮する。指揮体験の前に全曲演奏を聴くことで、スペインの情熱的で活気に満ちた雰囲気を感じ、音楽の理解や表現力を深めることができる。ワークショップでは弦楽器、管楽器、ピアノで指揮練習を行う。本公演までの自己練習のために当楽団オリジナルのお手本映像DVDを貸与する。

【打楽器共演】 ラファエル・エルナンデス作曲 エル・クンバンチェロ
音楽室にある打楽器や身近なもので打楽器を作成してプロのオーケストラの演奏に参加する。ワークショップではパートごとに基本的なリズムを練習する。本公演までの時間ではお手本映像を見ながら練習を行う。グループ練習や全体練習を行うことで、児童・生徒は協調性やコミュニケーション能力を身に付けることができる。

【楽器紹介】 山下康介作曲 Eternal earth ～こどもたちのための管弦楽入門～
オーケストラで使用する楽器の特徴を紹介する当楽団オリジナルの委嘱作品。地球の自然や生き物をモチーフに緑豊かな森や広大な海、空を舞う鳥たちなど、自然の美しさや生命の息吹を音楽を通して感じられる作品。地球の素晴らしさや大切さを伝える優しいメロディーに乗せてオーケストラの楽器を紹介する。(ナレーション入り)

【アンコールⅰ】 オーケストラの演奏で校歌合唱
身近な音楽である校歌をオーケストラ演奏で合唱することで、児童・生徒がクラシック音楽やオーケストラの魅力に触れる機会となり、学校や地域の歴史や伝統を歌い継ぐ役割が期待される。

【アンコールⅱ】 ヨハン・シュトラウスⅠ世作曲 ラデツキー行進曲
演奏会の最後に全員が手拍子で演奏に参加し一体感や満足度が高まる。

児童・生徒の参加または体験の形態

【指揮体験】 児童・生徒の代表がワークショップや本公演までに練習した曲でオーケストラを指揮する。
【打楽器共演】 児童・生徒の代表がワークショップや本公演までに練習した曲でオーケストラと共演する。
※音楽室にある打楽器や身近な物で打楽器を作成する。
【校歌合唱】 校歌をオーケストラ演奏用に編曲しアンコールで全員合唱する。

児童・生徒の参加可能人数

本公演

参加・体験人数目安

指揮体験2～3名／打楽器共演8～10名

鑑賞人数目安

鑑賞人数に制限はありません。

※別添①【企画書】を参照

- エドゥアルト・シュトラウス作曲(オーストリア) ポルカ・シュネル「テープは切られた」(2')
軽快なテンポに乗せて、汽車に乗って旅をしている楽しさを表現しています。
- ヨハン・シュトラウスⅡ世作曲(オーストリア) ワルツ「春の声」(6')
長い冬が過ぎて春を迎える喜びや幸せな気持ちが溢れる様子を表現しています。
- 【楽器紹介】 山下康介作曲(日本) Eternal earth ～こどもたちのための管弦楽入門～ (7')
オーケストラで使用する楽器の特徴を紹介する当楽団オリジナルの委嘱作品。
優しいメロディに乗せてオーケストラの楽器を紹介します。(ナレーション入り)
- ジョルジュ・ビゼー作曲(フランス) 歌劇『カルメン』より 前奏曲 (3')
数多くある歌劇の中でも最も有名な『カルメン』の冒頭に演奏される楽曲です。
闘牛場の華やかな興奮した気分をよく表しています。
- 【指揮体験】 ジョルジュ・ビゼー作曲(フランス) 歌劇『カルメン』より 前奏曲の一部分 ♪ (6')
歌劇『カルメン』より 前奏曲の一部分を指揮します。

本公演演出 原作/作曲 脚本 演出/振付	6【打楽器共演】ラファエル・エルナンデス作曲(プエルトリコ)エル・クンバンチェロ ♪ (8') 音楽室にある楽器や身近なもので打楽器を作成してプロのオーケストラの演奏に参加します。									
 休憩(15')									
	※別添①【企画書】を参照									
	7 指揮者による「ヴルタヴァ(モルダウ)」解説 (10') 作品が生まれた時代背景や歴史を分かり易く解説します。 児童・生徒が川の流れや流れが通過する情景を想像しながら聴くことができるよう、様々な場面の情景を表現する楽器を紹介しながら、特徴的な旋律を分割して演奏します。									
	8 ベドルジフ・スメタナ作曲(チェコ) 連作交響詩『わが祖国』より「ヴルタヴァ(モルダウ)」 (12') それぞれの楽器の音色が曲全体の中でどう生きているのかを感じ取ることができるよう、解説の後に通して聴いてもらいます。川の流れやその周りの情景をより深く想像しながら聴くことができます。									
	【アンコール】 i)オーケストラの演奏で校歌合唱 ♪ (3') ii)ヨハン・シュトラウスⅠ世作曲 ラデツキー行進曲 ♪ (3') ♪＝児童・生徒参加曲									
	公演時間	90～95	分							
出演者	指揮＝中井 章徳									
	司会＝西 けいこ									
	管弦楽＝九州交響楽団									
	(フルート:3名、オーボエ:2名、クラリネット:2名、ファゴット:2名 ホルン:4名、トランペット:3名、トロンボーン:3名、テューバ:1名 ティンパニ:1名、打楽器:4名、ハープ:1名 第一ヴァイオリン:10名、第二ヴァイオリン:8名 ヴィオラ:6名、チェロ:5名、コントラバス:4名)									
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	・指揮者＝中井 章徳(なかい あきとく) 京都市立芸術大学大学院博士課程修了、音楽博士。1998年ポーランド・マスタープレイヤーズ国際音楽コンクール優勝。これまでに札幌交響楽団、日本フィル、名古屋フィル、大阪フィル、九州交響楽団など国内主要オーケストラと共演を重ねるほか、イタリア各地でオペラを指揮。現在、出雲芸術アカデミー芸術監督、北九州シティオペラ客演指揮者、ヤマハ吹奏楽団常任指揮者を務め、演奏・教育・研究を三位一体に展開している。 ・司会＝西 けいこ(にし けいこ) 長崎県出身。国立音楽大学演奏学科声楽科卒業。NHKおかあさんといっしょ『ファンターネ！』がやってきた！』、宅配便『ファンターネ！小劇場』、いないいないばあっ！『ワンワンとあそぼうショー』をはじめとする舞台イベントにうたのお姉さんとして出演中。その他、コンサートやイベントの司会等も務める。東京を拠点とし、日本全国で開催される様々なイベントにて活躍中。当楽団とは本事業で令和3年度から共演を続けている。									
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者:	61	名	運搬				積載量:	4t, 2 t	
	スタッフ:	10	名					車 長:	9m, 6 m	
	合 計:	71	名					台 数:	計 2 台	
本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール)の目安	前日仕込		無		前日仕込所要時間				時間程度	
	到着	仕込		上演		内休憩	撤去		退出	
	午前8時	午前8時～10時		午後2時～3時30分		15分	午後5時30分		午後5時30分	
	※本公演時間の目安は、概ね2時間分程度です。									
本公演 実施可能日数 目安 ※実施可能時期については、採択決定後に再度確認します(大幅な変更は認められません)。	6月		7月		8月		9月			
	10月		11月		12月		1月			
	3日		5日							
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					計		8日		

- ・体育館フロアに舞台を設置しステージの前列からひな壇を組みます。
- ※体育館床面の傷つき防止のため養生シート敷設をお願いいたします。
- ・設置舞台は、幅約18m×奥行約9m、指揮台と最前列の間は2mです。
- ・楽器ケースを置く長テーブルを体育館の両脇に5～6台設置します。
- ・その他、空きスペースに大型楽器ケースや備品運搬用カーゴを置きます。



※生の演奏でオーケストラの迫力を体感！



※美しいメロディに乗せてオーケストラの楽器を紹介



※大人気の指揮者体験コーナー♪



※打楽器でオーケストラと共演



※分割演奏と曲目解説の後に全曲を演奏



※オーケストラの伴奏で校歌を合唱

本公演・ワークショップの内容

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※会場条件について最低限必要な条件がある場合には、様式No.4内「会場簡易図面」を記載してください。

著作権、上演権等の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続の要否	該当あり		該当コンテンツ名	・山下康介 ・ラファエル・エルナンデス
	該当事項がある場合	権利者名	一般社団法人日本音楽著作権協会 JASRAC	許諾確認状況	採択後手続き予定

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名 公益財団法人九州交響楽団 】

ワークショップのねらい

オーケストラや音楽に直接触れる機会が少ない児童・生徒たちにも興味を持ってもらえるよう、プロの演奏家が分かりやすく楽しいお話を交えながら【鑑賞指導】を行う。「本公演を100倍楽しむ！」ために、国ごとで異なる“音名”のお話や、色々な“音階”を説明し演奏を聴く中でその特徴を感じてもらう。また、『音楽の大切な三つの柱』を分かりやすく説明し、「メロディ」のおもしろさや「ハーモニー」の不思議、「リズム」の仕組みを演奏を聴いて感じてもらう。本公演のテーマである“情景”を想像しながら聴くことで本公演に向けた事前学習とする。

【実技指導】では、『指揮体験』練習や『打楽器共演』練習を通して音楽や楽器に興味を持ってもらうと共に、自由な発想やアドリブ的な演奏で児童・生徒の想像力や感性を育て、また、継続したグループ練習の中でチームワークの重要性を体感し、協調性やコミュニケーション能力を身に付けてもらう。

児童・生徒の参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

実施会場の規模にもよりますが、1クラス(約35名)から1学年(約100名)程度

ワークショップの内容

ワークショップ実施形態及び内容

【鑑賞指導】

1 『ドレミの“いろは”』

～「本公演を100倍楽しむ！」ための『聴き方』を学ぶ～

オーケストラの一般的な配置図を見ながら楽器の紹介やその特徴を紹介する。「ドレミファソラシド」の呼び方が国によって異なることや、演奏を交えながら色々な音階を説明しその特徴を感じてもらう。

2 『音楽の三つの大切な柱』

～これを知ると、クラシックのみならずポップスや童謡、唱歌まで音楽がおもしろくなる！～

音楽は『三つの大切な柱』で成り立っていることを演奏を交えながら説明し感じてもらう。

・「リズム(拍子)」…聴く人にリズム感や躍動感を与える役割がある。(「リズム」については【実技指導】で説明し共演の練習をする。)「リズム」と同様に大切な「拍子」を、異なる拍子の演奏を聴いてその違いを感じてもらう。

・「メロディ(旋律)」…曲の中心となる旋律のことで、聴く人に曲の印象を与えたり感情を伝える役割がある。

・「ハーモニー(和音)」…一つ一つの音が同時に演奏されて生まれる“調和”の事で、“様々な物同士の関係がうまくいっている様子”。複数の音が同時に演奏されることを“和音”といい、明るい和音を“長調”、暗い和音を“短調”という。

【実技指導】

1 『指揮体験』練習

当楽団オリジナル「お手本DVD」を見ながら拍子やリズム、指揮方法を説明し、ピアノと弦楽器等を指揮して指揮練習をする。「お手本DVD」を実施校へ貸与し、本公演での指揮体験の練習教材としてもらう。

2 『打楽器共演』練習

共演曲の映像を観てもらい共演楽器や曲のイメージを膨らませたうえで、基本的なリズムや各パートの重なりを分かりやすく説明し練習をする。児童・生徒の中から数人に前へ出てもらい、パート毎に部分練習を繰り返す。ワークショップの最後には「練習用映像」に合わせて演奏し更に共演のイメージを膨らませてもらう。前へ出ていない児童・生徒には手拍子やボディーパーカッションで練習に参加してもらう。

ワークショップ参加人数や学校にある楽器の状況や学校のニーズを事前に確認し、参加人数に対して楽器の数が不足するような場合は、身近なものを打楽器に見立て出来る限り多くの児童・生徒が共演練習に参加できるような準備を整える。

その他ワークショップに関する特記事項等

・ワークショップ実施時期は残暑が厳しいため、児童・生徒や派遣者の熱中症対策として実施会場や環境について実施校と協議する。

・ワークショップは通常2時限行う。1時限目を芸術鑑賞能力の向上を図るための【鑑賞指導】とする。2時限目は本公演での打楽器共演練習【実技指導】を行う。

なし

【公演団体名】 公益財団法人九州交響楽団

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。

- ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
- ・搬入車両が構内に入れず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
- ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。

上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。

任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。

詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくこととなります。

なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。									
会場の設置階の制限			2F以上応相談		主幹引き込み電源容量					A以上
舞台設置面積			間口	18	m	奥行	9	m		
			高さ	制限なし	m					
舞台設置場所			フロア対応	可		学校のステージでの対応			不可	
搬入間口の広さ			幅	2	m	高さ	2	m		
遮光の要否			不要		緞帳の要否			不要		
ピアノの使用について			使用しない		ピアノを使用する場合の設置位置の指定					
					ピアノを使用しない場合の移動の要否			条件なし		
搬入車両(トラック等)の横づけ			必須		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離			30	m以内	
搬入車両の種類			大型トラック		台数	2	台			
搬入車両の大きさ			車幅	2.5	m	車長	9	m		
備考			<p>・体育館全体の遮光は必要ありませんが、演奏者や設置舞台に陽が差す場合は必要に応じて体育館の暗幕を閉めさせていただくことがあります。</p> <p>・楽器搬入車両は4t車1台、2t車1台の予定ですが、近隣の道路状況や敷地内の状況に応じて、2t車3台になる場合もあります。(ワークショップの際に確認いたします。)</p>							

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

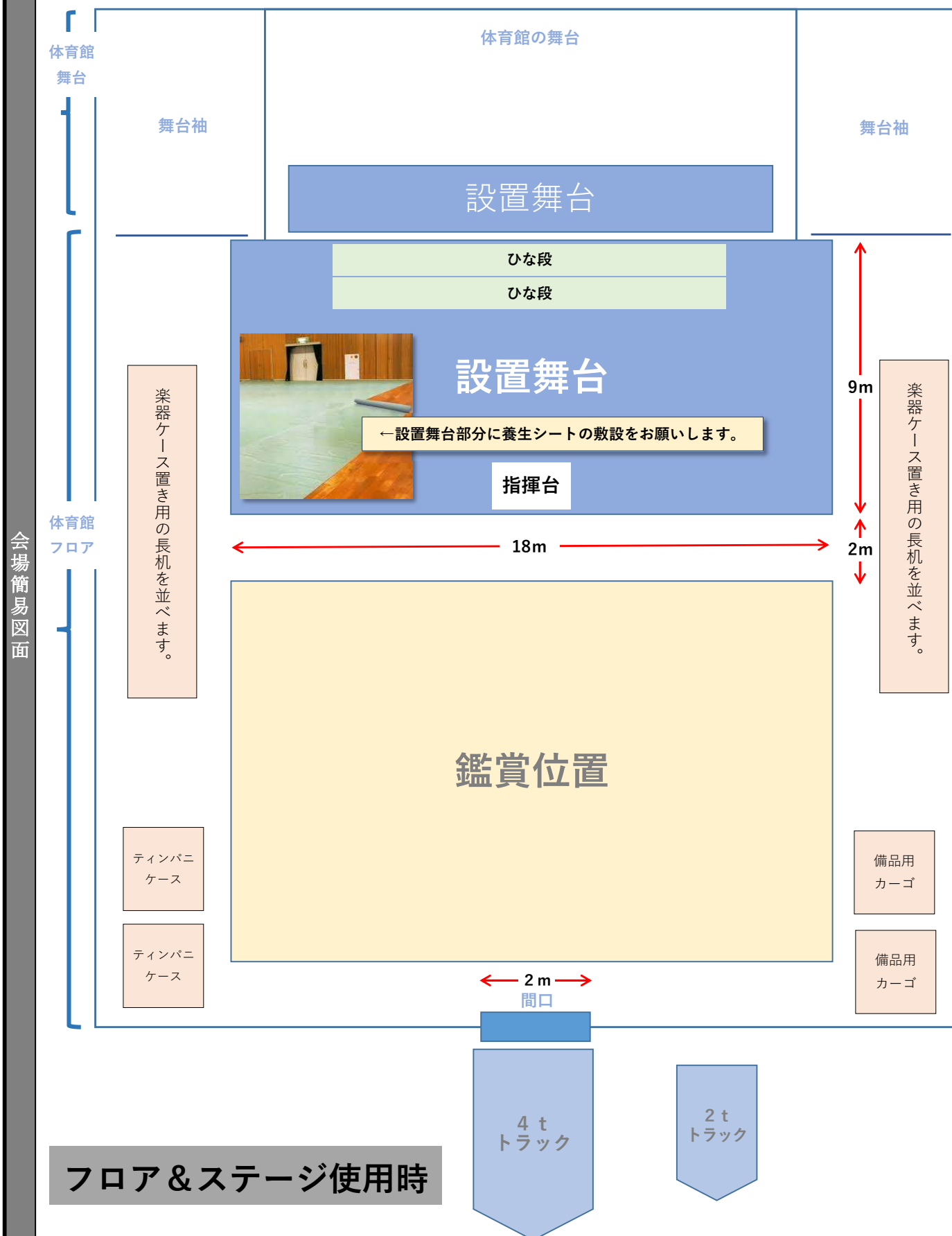
学校からの情報

(任意) 学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
会場図面の提出可否	要
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)	・想定される楽器搬入経路に段差がある場合は、可能な範囲で結構ですので、段の高さと段数に分かる写真のご提出をお願いします。

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	60分程度 (可能な範囲で結構です)	ワークショップ終了後 ～本公演実施前まで (授業に支障のない時間帯)	お手本映像に合わせて 打楽器共演の練習を行う	当楽団リジナルのお手本映像 DVDを貸与します
ワークショップ	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	30分程度 (可能な範囲で結構です)	ワークショップ終了後 ～本公演実施前まで (授業に支障のない時間帯)	お手本映像に合わせて指揮体験の練習を行う	当楽団オリジナルのお手本映像DVDを貸与します	
本公演	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	15分程度	公演当日に行うオーケストラリハーサルに合わせた時間帯 (対象の児童生徒は授業を抜けて参加いただく可能性があります)	打楽器共演曲をオーケストラと一緒に演奏する	指揮者や打楽器奏者によるワンポイントレクチャーあり	
本公演						

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。
		個別ヒアリング事項
	1	・体育館床面保護のため体育館シート(全面or舞台設置部分)の敷設をお願いします。
	2	・1の体育館シート上、控室までの導線(校内)を楽団は黒靴で移動します。体育館出入口と校舎出入口に濡れ雑巾を設置します。雑巾の準備や撤収は当楽団で行います。
3	・体育館の階層をご教示ください。2階以上の場合、昇降設備の有無や大よその階段幅や段数を併せてご教示ください。	

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。



別添

なし

【公演団体名 公益財団法人九州交響楽団】

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

【本事業を通じて実現したいこと】

・「将来を担うすべての子供たちの豊かな感性を育む場を作り、芸術鑑賞能力の向上を図るとともに、文化的な地域格差の解消を促進することを目的とする。」という本事業の趣旨を念頭に置き、企画テーマとその意図を明確にし、ワークショップから本公演まで一貫性のあるテーマでプログラムを構成している。

・ワークショップでは当楽団オリジナルの「お手本映像」や「練習用映像」を有効に用いた指導や練習を行う。本公演までの練習方法や演奏のコツを丁寧に説明する。ワークショップや本公演までの練習の過程に於いて子どもたちの発想力や協調性、コミュニケーション能力の育成を図る。ワークショップやその後の練習の成果を十分に発揮し、プロのオーケストラと共演するという貴重な機会を通して音楽の奥深さを感じ豊かな感性を育む。

・本公演後半にはクラシック音楽の名曲をプログラミングする。理解しながら名曲を聴き芸術鑑賞能力の向上を図ることができるよう、特徴的な旋律の分割演奏や作品の生まれた背景や作品紹介、楽器紹介を交える。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

・ワークショップの位置付けや本公演への繋がり、ワークショップの実施内容、事前学習や共演練習のための学校準備楽器、教材提供について実施校へ十分な説明を行う。

・主指導者・補助者が共通の認識でワークショップに臨み、ワークショップが有意義なものになるよう、演奏曲やお話、手順、教材使用などについて台本を作成しスムーズな進行を図ると共に、異なるメンバーによるワークショップでも同様のクオリティを保つ。

・ワークショップでの指導や本公演までの共演練習を考慮した上で、児童・生徒の共演参加曲目については、楽団オリジナルの「お手本映像」や「練習用映像」を制作し実施校にDVDを貸与する。

・本公演に向けた共演練習を進める中で不明な点があれば都度説明し、必要に応じて楽団員から直接説明ができる体制を整えている。

・「進行台本」を出演者、スタッフが共有し、本事業の企画テーマやその意図、ワークショップ内容、ワークショップから本公演への繋がりに於いて同じ認識を持ち本公演に臨む。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

【学校との連絡調整について】

・本事業の企画テーマや意図を始め、ワークショップ・本公演の実施内容、実施日程調整、会場環境確認、当日準備など「企画書」や「参考写真」を用いて実施校へ丁寧な説明を行う。

・実施校からの問い合わせに対しては迅速に対応し課題があれば改善策を講じる。実施日までのタイムスケジュールや状況確認など実施校と細目に連絡をとり、双方に懸念事項がないよう心掛ける。

・実施校への連絡や共有事項はメールやFAXで予め概要を伝えたくて電話確認するなど、担当の先生に出来る限り負担をかけないように心掛ける。異動等で応募時と実施時で担当の先生が変更になった場合は、それまでの経緯や進捗状況を説明し、実施までの準備が円滑に進むよう心掛ける。

・オーケストラやスタッフ、楽器運搬トラックの動きを記載した「タイムスケジュール」を事前に実施校へ提出し、情報共有を図るとともに授業や児童・生徒の登下校の妨げにならないよう努める。近隣の時間規制道路の確認も怠らない。

・当日リハーサル前には、担当の先生、指揮者、司会者、音楽主幹、ステージマネージャー、インスペクター、本事業担当で進行確認の打ち合わせを行い、スムーズな進行に努める。

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

・特別支援学校でを実施する場合は、実施前に学校を訪問し児童・生徒の状況を把握し学校の意向を踏まえたうえでワークショップの内容や進行を検討する。過去映像や写真を参考に本事業の企画テーマや意図、公演内容、児童・生徒参加プログラムを学校へ詳細に説明する。児童・生徒の共演参加プログラムについては実施校の意向を踏まえ無理の無い範囲で行う。

・作品の説明やナレーションに於いて、小学生、中学生それぞれに合った身近な例え話を取り入れたり、話し方やスピードに変化をつけて集中力を高める。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

・演奏をただ聴いただけで終わらせず、企画テーマである“情景描写”で想像したことや感じとったことを言葉で表現した(感想文を書いた)り、クラスに戻って感想を共有することでより感性を養うことができる。

・何気なく耳にする音楽であっても作曲家の意図や時代背景を知りたいという気持ちが生まれ、児童・生徒の主体的な学びに繋がり音楽への興味が湧く。

・オーケストラ伴奏による校歌合唱では、学校や地域の歴史や伝統を歌い継ぐ役割が期待される。

令和8年度舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）

公益財団法人九州交響楽団

♪ワークショップ

当楽団は、企画テーマとその意図を明確にし、ワークショップから本公演まで一貫性のあるテーマに基づいたプログラムを構成します。



< 鑑賞指導 >

『ドレミのいろは』

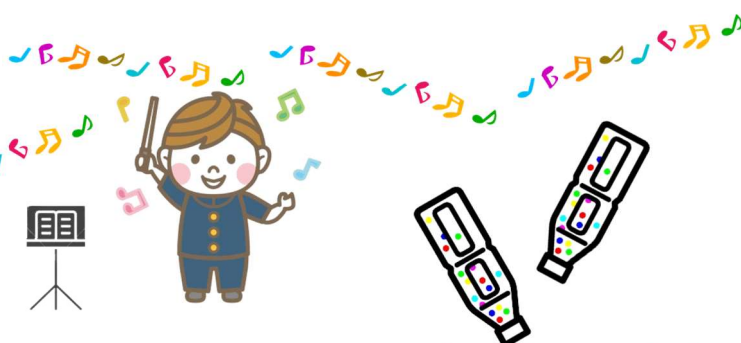
本公演を100倍楽しむ！ための「聴き方」を学びます

『音楽の三つの大切な柱』

これを知ると色んなジャンルの音楽が楽しくなります！



※色々な情景の曲を聴いて想像を膨らませます



< 実技指導 >

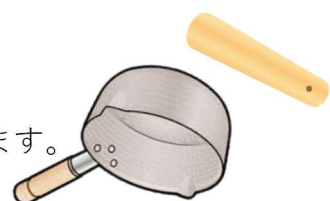
プロオーケストラとの共演という貴重な体験を充実したものにします。

『指揮体験』

- ・お手本映像を観ながら拍子やリズムを説明し、指揮体験のイメージを持ってもらいます。
- ・ピアノと弦楽器等を指揮して、本公演でオーケストラを指揮する練習を行います。
- ・本公演での指揮体験に向けた練習用に「お手本DVD」を実施校へ貸与します。

『打楽器共演』

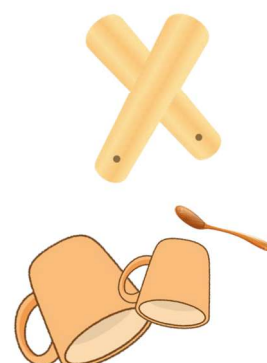
- ・共演曲映像を観てもらい共演のイメージを膨らませてもらいます。
- ・基本的なリズムやその進行を分かりやすく説明し共演の練習を行います。
- ・学校にある楽器の他に身近な物を楽器に見立てて演奏します。



※指揮体験お手本映像



※映像に合わせて打楽器共演の練習



企画名：『情景描写』

作曲家や演奏家は楽器を使ってどんな景色や気持ちを表しているのでしょうか…
想像しながら聴いてみましょう♪

♪本公演

指揮＝中井 章徳

司会＝西 けいこ



管弦楽＝九州交響楽団



< プログラム >

- ♪ エドゥアルト・シュトラウス作曲 ポルカ・シュネル「テープは切られた」
軽快なテンポに乗せて、汽車に乗って旅をしている楽しさを表現しています。
- ♪ ヨハン・シュトラウスⅡ世作曲 ワルツ「春の声」
長い冬が過ぎて春を迎える喜びや幸せな気持ちが溢れる様子を表現しています。
- ♪ 【楽器紹介】 山下康介作曲 Eternal earth ～こどもたちのための管弦楽入門～
オーケストラで使用する楽器の特徴を紹介する当楽団オリジナルの委嘱作品です。
優しいメロディに乗せてオーケストラの楽器を紹介します。（ナレーション入り）
- ♪ ジョルジュ・ビゼー作曲 歌劇『カルメン』より 前奏曲
数多くある歌劇の中でも最も有名な『カルメン』の冒頭に演奏される楽曲です。
闘牛場の華やかな興奮した気分をよく表しています。

♪＝児童・生徒共演プログラム



※美しいメロディに乗せて
オーケストラの楽器を紹介します

🎵 **【指揮体験】** ジョルジュ・ビゼー作曲 歌劇『カルメン』より 前奏曲の一部分 🎵
歌劇『カルメン』より 前奏曲の一部分を指揮します。



※指揮者による指揮指導



※オーケストラの指揮体験



🎵 **【打楽器共演】** ラファエル・エルナンデス作曲 エル・クンバンチェロ 🎵
音楽室にある打楽器や身近なもので打楽器を作成して、
プロのオーケストラの演奏に参加します。



※打楽器でオーケストラと共演

🎵 **指揮者による「ヴルタヴァ（モルダウ）」解説**

作品が生まれた時代背景や歴史を分かり易く解説します。
児童・生徒が川の流れや流れが通過する情景を想像しながら聴くことができるよう、
様々な場面の情景を表現する楽器を紹介しながら、特徴的な旋律を分割して演奏します。



※分かり易い解説で想像が膨らみます



🎵 **ベドルジフ・スメタナ作曲 連作交響詩『わが祖国』より「ヴルタヴァ（モルダウ）」**
それぞれの楽器の音色が曲全体の中でどう生きているのかを感じ取ることができる
よう、解説の後に通して聴いてもらいます。
川の流れその周りの情景をより深く想像しながら聴くことができます。

〔アンコール〕 🎵 **オーケストラの演奏で校歌合唱** 🎵
🎵 **ヨハン・シュトラウスⅠ世作曲 ラデツキー行進曲** 🎵



※オーケストラの伴奏で校歌合唱

